令和6年度

浜松市立和田小学校

第5回　学校運営協議会

令和7年2月18日(火)
午後1時40分～午後3時40分
視聴覚室にて

〈本日の日程〉

13:40～14:10 授業参観 ※ 御自由に御参観ください。

14:20～15:40 学校運営協議会

学校運営協議会 次 第

※ 開催要件確認（委員の過半数の出席が必要です。）

1 会長挨拶

2 校長挨拶

3 議長の選出

4 前回会議録確認

5 熟議

（1） 授業についての意見交換 - 10分 -

（2） 学校運営の基本方針について（承認） - 20分 -

（3） 学校運営協議会 自己評価 - 20分 -

6 その他

・夢育やらまいか事業報告（CS 加算分）

・学習ボランティア活動状況

・情報交換 等

7 連絡

○ 令和7年度 年間行事計画

○ 令和7年度 第1回運営協議会の予定

・第1回 5月9日（金）

令和６年度　第４回学校運営協議会　会議録（要点記録）

１　開催日時　　令和７年１月１６日（木）１４時２０分から１６時３０分まで
２　開催場所　　和田小学校　視聴覚室
３　出席委員　　安藤　小ゆり、神谷　みち子、鈴木　滋芳、林　實、箕浦　利弘
４　欠席委員　　齋藤　博、早川　智美、山内　慶一
５　教育委員会　井島　健蔵（指導主事）
６　オブザーバー　なし
７　学校　　横井　靖二（校長）、岡本　綾子（教頭）、中西　伸（主幹教諭）
　　小粥　万祐子（ＣＳディレクター）
８　傍聴者　　なし
９　会議録作成者　ＣＳディレクター　　小粥　万祐子
10　会長挨拶　　欠席のため割愛
11　校長挨拶
12　議長の選出
　司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、鈴木委員を推挙する旨の発言があり、全員意義なくこれを承認した。
13　前回会議録確認
14　協議事項
　⑴授業についての意見交換
　⑵来年度の学校運営について～２学期教育課程アンケート結果をもとに～
　・教育課程アンケート結果・考察・改善策
　・改善策についての話し合い
15　会議記録
　司会の岡本教頭より、委員総数８人のうち５人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

⑴授業についての意見交換
会議前に授業参観を行い、それについての意見交換をした。
・来校時、寒い中、草取りをしている子がいて感心した。（箕浦委員）
・毎年暮れに、地域のお年寄りにプレゼントをしていて、６年生の子供たちが書いてくれた手紙を添えている。手紙を読んだ高齢者の方たちから、感謝の言葉を預かった。ぜひ子供たちにお礼を伝えてほしい。（箕浦委員）
・外ではなかなか挨拶が出来ないという声も聞くが、地域の方から、最初は自分の方が知らない子だからと、挨拶するのを迷っていたが、子供たちの方から挨拶をしてくれて本当にうれしかった、という声も届いている。（箕浦委員）
・３年生の書き初めが、のびのびと元気に書いてあると感じた。授業では、カルタをしていて、お正月らしくていいなと感じた。季節の物を取り入れて教えてくれたら、有難い。（安藤委員）

・先日、６年生の授業にボランティアで入った際、ひまわり学級の子も男の子も女の子も子供たち同士で助け合っていて、落ち着きもあり、とてもいい雰囲気だと感じた。
（安藤委員）
・３年生の図工で、金づちと釘の説明をしていた。自分の時代は、家で使いながら覚えたものだが、そういうご時世になったのかと驚いた。（林委員）
・４年生の算数で、ひっ算をやっていた。めんどうな計算は電卓を使うと思っていたが、しっかりと計算の過程を学んでいた。（林委員）
・３年生、４年生の国語で、文章を作成しているクラスがあった。昨今は、文章作成の授業は少ないのかと思っていたが、やはりこれが基本だと思った。（林委員）
・６年生の社会で、戦争について学んでいたが、戦時体験を語り継ぐのは難しいと感じた。空襲の様子をモニターを使って教えていて、教育機材の発達に感心した。（林委員）
・冬休み明けだが、全体的に落ち着いた雰囲気だと感じた。（神谷委員）
・若い先生が、新年度始めより自信をもって授業を進めていて、先生の成長も感じられた。授業の進め方を黒板に提示してあり、工夫していた。子供ともいい関係を築けていると感じた。（神谷委員）
・先生が工夫して授業を進めていて、子供たちが楽しそうに取り組めていると感じた。
（鈴木委員）

⑵来年度の学校運営について～２学期教育課程アンケート結果をもとに～
各部担当教諭から別紙資料（「令和６年度学校評価及び学校関係者評価」）に基づいて来年度の学校評価及び学校関係者評価について説明があり、委員から以下の発言があった。
①「知」知育向上プランについて
・学校評価は、和田小が任意でやっているのか全学校でやっているのか。また、これは保護者に公開しているのか。（林委員）
⇒学校評価は、法律で定められていて、全国の学校がやっている。浜松市では、３月の始めに市教委に提出していて、保護者の方には、HPで公開している。（中西主幹）
・年々、ICTを活用した授業が増えていることがうかがえる。これから先、新たなソフトウェアが開発され、益々ICTを活用した授業のウエイトが高まると思われるが、従来型の授業も優れたものがあり、バランスのよい使い分け、新たなソフトの有効性の検証が必須である。（林委員）
・授業のUDで工夫していることはどんな事か。（安藤委員）
⇒集中して取り組めるように、机上に出すものを決め、整とんを促している。タイピングでキーボードのアルファベット表記が苦手な子にはシール等を活用している。授業の振り返りをして、子供の理解度や困り感を把握し、支援に生かしている。（学校担当教員）
・みんな一緒に取り組める環境にしていかなければいけない。（箕浦委員）
⇒本校には発達支援学級が２クラスあるが、通常学級の子供たちが支援学級のことを正しく理解できていないのではないかという不安がある。クラスにもいろんな子がいる、人にはいろんな特性があることを受け入れて、お互いに尊重し合って生きていくことを大事にしなければならない。今年度を振り返ると、十分ではなかったと感じる。（校長）

・ICT の活用が進み世の中が変わっていくなか、これからの時代は、自分で何を学ぶか、何を学ばなければいけないか見つけていかなければならない。今後どのような時代になるのか予想もつかないが、それでも生きていける力を身に付けていかなければならない。
（神谷委員）

・学びのサイクルの確立について、引き続き、改善含め取り組んでいただきたい。
（鈴木委員）

②「徳」徳育向上プランについて

・不登校の児童が放課後クラスで授業を受けていたり、転校してきた児童と近所の子たちが放課後一緒に遊べるよう声を掛けたりと、先生がきめ細やかにサポートしていると感じる。
（神谷委員）

・ボランティアで授業に参加した際、子供たちが完成した物を見せてくれ、褒めるととても嬉しそうだった。ボランティア参加者にも小さなことでも褒めてあげるよう声掛けをしている。
（神谷委員）

・１０年くらい前から学期末に安間町公会堂で、自治会の協力のもと民生委員が中心になって、不登校傾向の子供や家庭に事情のある子供たちを受け入れている。そういう場があることも保護者の方にも知ってもらいたい。学校と協力して子供たちを受け入れていきたい。
（箕浦委員）

・一人一人不登校の理由は違うので、それに対応していくのは先生方も大変だと思う。私たち民生委員が関わるのも、安間町公会堂での活動も含め、民生委員さんたちの熱意があればこそ出来たこと。なかなか簡単に出来ることではない。
（安藤委員）

・不登校に対して学校としての取り組みには限度がある、やはり行政が中心となって進めてもらうべき。市としての取り組みを聞かせていただけるのならお願いしたい。（林委員）

⇒基本的には、カウンセラー、スクールソーシャルワーカーが、専門機関・福祉機関と繋げていく。しかし、その子の気持ちを開いていかなければ会うことすらできない状況もあるので、気持ちを解きほぐすために地道な活動をしていただいている。　（井島指導主事）

・スクールソーシャルワーカーに、協議会に来て話を聞かせてもらうのはどうか？現状を聞かせてもらうことで、私たちが対象児童の心理・心境を理解する一助になるのではないか。
（林委員）

⇒「どことも繋がっていない子どもをなくしたい。」というのが、市教委の考えであり、県教委も同じ考えである。県教委の動きとして、アバターを使って交流をする活動が、来年度、正式に稼働予定である。こちらは、浜松にも案内がきているが、浜松市は、やはり直接の関わりがいいと考え、テレビ会議のような形で繋がりを作っていこうとしている。「学びの教室」とオンラインで繋がる事業がこの冬から始まったところである。
（校長）

・異学年交流がいいと思う。高学年は責任感が、低学年は安心感がうまれる。いじめに対しても捉え方が変わってくる。いろんな環境の中で過ごすことで、何かしら得られるのではないか。
（鈴木委員）

③「体」体育安全向上プランについて

・外で遊ぶ場所も限られていると思うが、安心して遊べる場所・環境が必要。市としても考えていただければ有難い。（箕浦委員）

・下校時、家が遠い子はどうしても最後１人になってしまうが、学年ごと、同じ時間に学校を出られるよう、終わりの時間が一緒になるように、先生方が気にしてくれている。（神谷・林委員）

・５，６年生になると生理が始まる子がいる。最近は、スポーツやダイエットの為に食事制限することが低年齢化しているので、小学校高学年になるとする子が出てくるのではないか。生理にも影響があるし、ダイエットは拒食症にもつながるので、機会があれば指導していただきたい。（安藤委員）

⇒５年生の林間学校の前に学年全体（女子のみ）に指導している。（校長）

⇒４年生の体育科の保健の学習に含まれている。既に生理が始まっていて分かる子もいるが、実感出来ないときに学習している子が多い印象はある。特に男子。（中西主幹）

・孫との実生活から食育の大切さを感じている。給食でおいしかったメニューを家でも作ってほしいとリクエストがある。（林委員）

④信頼される学校づくり

・参観会は日時を決めた形での開催しかないのか。フリー参観を実施してはどうか。（箕浦委員）

・年度ごとのボランティア別の延べ人数を見られるようにして、コミスク便りで発信したら、コミュニティ・スクールの理解へつながるのではないか。（林委員）

・初期対応を確実に迅速に行う事、抱えこまずに情報共有が大事。（鈴木委員）

・以前は学校公開日があったが、今はないのか。（神谷委員）

⇒実施していない。子供の様子が気になる方は、様子を見に来ていただくのは、構わない。（校長）

⑤令和７年度教育目標について

校長から令和７年度和田小学校学校経営構想について説明があった。

16　その他

◎学校支援活動について

・神谷委員より令和６年度２学期までのボランティア実施状況の報告があった。

◎教育委員会　井島健蔵指導主事より

◎諸連絡

・次回の学校運営協議会は令和７年２月１８日（火）に開催するとの報告があった。

以上

令和７年度　浜松市立和田小学校　学校経営構想

○ はじめに

令和７年度の学校経営構想の立案、及び、教育課程を編成するにあたり、全教員と学校運営協議会委員で、和田小の子供たちの現状と目指すこどもの姿、特に培っていきたい資質・能力について話し合った。その結果を整理すると、和田小の子供たちのよいところと改善点については、次の４点ずつとなった。

◇よいところ
- ○明るく素直で元気。
- ○挨拶ができる。（校内）
- ○思いやりがある。
- ○何事にも一生懸命に取り組む。

◆改善点
- ●主体性が弱い。
- ●粘り強さに欠ける。
- ●けじめがつけられないことがある。
- ●善悪の判断がつかないことがある。

一人一人の子供は明るく素直で、思いやりある面が見られる。校内で出会ったときにはしっかりとした挨拶ができている。また、何事にも一生懸命に取り組み、特に上級生では任された仕事に責任をもって取り組み、リーダーシップを発揮している。

しかし、校外でのあいさつは、朝の旗振りの保護者や地域の人へは積極的にはできていない。任された仕事には一生懸命に取り組むものの、指示されないとできない面が見られる。これは学習面においても同様で、自分から課題を見つける、解決方法を考えるということは苦手であり、自主性、主体性に欠ける面が見られる。また、最後まで粘り強く取り組む、苦しいことがあっても頑張って乗り越えようとする忍耐強さにも弱さが見られる。規範意識に欠け、頭では分かっていても実際の言動となると善悪の判断がついていなかったり、けじめがついていなかったりすることが少なからず見られるところも改善点として挙げられた。

これらのことから、「目指す子供の姿」や「特に培っていきたい資質・能力」について話し合い、出された意見を基に以下のように整理した。

【特に培っていきたい資質・能力】

・主体性　　・粘り強さ　　・規範意識、判断力　　・コミュニケーション能力

【目指す子供の姿】
- ○自分の課題をもち、最後まで粘り強く取り組む。
- ○自分も周りの人も大切にし、思いやりある言動ができる。
- ○主体的に考え、自分で判断し、正しい行動ができる。
- ○誰にでも明るく元気な挨拶ができる。

ここまでの話し合いから、現行の学校教育目標を見直す必要があるという結論になり、令和７年度の学校教育目標については、上記の内容、国や浜松市の動向、天竜中学校区で目指す子供の姿を踏まえ、これまでより若干ではあるが具体的な目標を設定することにした。

１　学校経営構想の基本方針

（１）第４次浜松市教育総合計画（初年度）の教育理念『描く夢や未来の実現』を受けた「自分らしさを大切にするこども」「他者と協働し、主体的に行動できるこども」「自己調整しながら、粘り強く取り組むこども」の視点を踏まえて、『はままつの人づくり』を和田小学校の子供たちの成長の姿で具現する。

（２）学習指導要領の理念の理解を深めるとともに、その内容を踏まえた教育課程を編成し、着実に実施する。

（３）「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」（令和３年１月　中央教育委審議会答申）で示された「令和の日本型学校教育」の具現を目指し、ＩＣＴを活用しながら個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。

　また、「『令和の日本型学校教育』を担う教師の要請・採用・研修等の在り方について」（令和４年１２月　中央教育審議会答申）で示された教師の学びの在り方、研修の在り方を見つめ直し、新たな教師の学びの姿を追究する。

（４）天竜中学校区の目指す子供像の具現化を図るために、４つの小中学校における情報交換を密にするとともに、連携・協働を意識した教育活動を計画的に進め、小中一貫教育を推進する。

（５）すべての教育活動を通じてキャリア教育に重点をおいた教育を推進するとともに、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力の育成を図る。また、情報機器の積極的な活用、効果的な活用を図る。

（６）教育課程の編成・実施・評価・改善に組織的に取り組み、その状況を家庭や地域に伝えることで「保護者や地域に信頼される学校づくり」に邁進する。

（７）令和４年度に導入したコミュニティ・スクール制度から、これまで以上に教育課程を地域社会に開くとともに、学校運営協議会及び本制度を活用することで保護者・地域との一層の連携、協力、協働を推進し、教育活動の充実を図る。（カリキュラム・マネジメントにも生かす。）

（８）昨年度、学校運営協議会委員と本校教員で共有した子供の実態と目指す子供の姿から、学校教育目標や目指す子供の姿、特に身に付けさせたい資質・能力を改めた。その中で、何事にも一生懸命に取り組むという子供たちの良さを生かしつつ、何事にも主体的に、粘り強く取り組むことを意識していくために、以下のスローガンを設定した。

【令和７年度のスローガン】
「*Do my best! Do our best!*　私の　わたしたちの　最善を尽くそう！」

２　校訓 及び 学校教育目標

校　　訓　　**自 主**　**協 同**　**創 造**

学校教育目標　**自ら考え、挑戦し続け、ともに未来を築く子**

３　目指す子供の姿

学校教育目標を具現化するために、「知」「徳」「体」の３つの面から目指す子供の姿を「学びあう子」「認めあう子」「きたえあう子」とした。具体的な姿については、「知」「徳」「体」で分けずに、合わせて示すこととした。

学びあう子　　認めあう子　　きたえあう子

〇自分の課題をもち、最後まで粘り強く取り組む。
〇自分も周りの人も大切にし、思いやりある言動ができる。
〇主体的に考え、自分で判断し、正しい行動ができる。
〇誰にでも明るく元気な挨拶ができる。

本年度、特に培っていきたい資質・能力
　主体性　　粘り強さ　　規範意識・判断力　　コミュニケーション能力

和田っ子宣言（令和５年度　創立・開校１５０周年を機に制定）
〇進んで明るいあいさつをします
〇みんなで助け合います
〇みんなで思いやり、仲良くします

４　学校経営目標（目指す学校像）

一人一人の笑顔いっぱい夢いっぱいの学校

子供も職員も、一人一人が自分のよさを感じ、互いに寄り添い、認め合い、支え合い、励まし合いながら生き生きと活動することを通して自他を高め、夢や希望をふくらめることができる学校を目指す。

５　経営の重点

＜教育活動全体を通じて＞

（１）キャリア教育の推進

キャリア発達の基盤となる力の育成を目指し、特別活動を要として各教科、領域における指導を工夫する。

本校で押さえた４つの基礎的・汎用的能力と、その中で重点とする資質・能力

〇人とかかわる力　　〇自分を見つめる力

〇学びを深める力　　〇未来につなげる力

（２）基盤となる力の育成

すべての教育活動を通して、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力の育成を図る。また、情報機器を積極的に活用し、効果的な活用を図る。

＜「学びあう子」の育成のために＞

（３）授業改善の推進

〇　学習習慣の定着と授業規律の徹底を基盤とした基礎基本の定着を図る。

〇　育成したい資質・能力から教科横断的なカリキュラムマネジメントを行うとともに、子供の実態を踏まえた単元構想を工夫する。また、保護者や地域との連携を図った単元構想を一層進める。授業の複線化にも取り組む。

〇　「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。

〇　家庭学習にもＩＣＴを活用し、授業との関連を図る。

（４）発達支援教育の充実

〇　児童理解に努め、職員及び家庭等との連携・協働による個に応じた指導を推進する。

＜「認めあう子」の育成のために＞

（５）心の教育の推進

〇　主体的な学び、対話的な学びを重視した道徳教育の充実を図り、自分事として考えたり、物事を多面的にとらえる力、正しく判断する力を育成したりする。

〇　月１回「心の日」を設定し、他者との関わり方を学ぶ機会を設ける。

〇　一人一人を認め合い、尊重し合う多様性・包摂性の理解と実践を図る。

〇　異学年集団での活動を継続的に取り入れ、思いやりや助け合いの心、リーダーシップとフォロワーシップを発揮する場を設ける。

（６）生徒指導の充実

〇　温かな人間関係を築く学級経営を基盤に、ほめて伸ばす指導や気持ちに寄り添う相談指導を充実させ、自己有用感を高める。

〇　組織的な取り組みにより、いじめの未然防止、早期発見、早期解決を図る。

＜「きたえあう子」の育成のために＞

（７）体力向上の取組

〇　体を動かすことを楽しみ、進んで体力向上に努める力を育てる指導や機会の充実を図る。

（８）安全教育の推進

〇　自他の命を大切にし、臨機応変に行動する力を育てる指導を進める。（交通・防犯・災害）

（９）生活習慣の改善

○　自己の生活を振り返り、自ら改善する力を育てる。（健康・食育）

６　目指す教職員の姿

（１）一人の教師として

○　子供に寄り添い、子供理解に努める教職員（人間味あふれる教職員）

・　子供をかけがえのない一人の人間として受け止め、寄り添う。

・　進んで遊んだり交流したりして様々な視点で子供のよさを把握する。

・　どの子供にも温かなまなざしや声掛け、指導、支援等を行う。

・　よさを認める言葉や過ちを諭す言葉を大切にして、子供のやる気を引き出す。

○　自己研鑽に励む教職員

・　「分かる授業・楽しい授業」を実現するために努力を惜しまない。

・　キャリアステージを考え、本校での自分の役割を意識する。

（２）組織として

○　組織で考え、動き、支え合う教職員（ワンチーム）

・　学年全員で協力して学年運営を進める。（学年グランドデザインの作成）

・　情報を共有し、組織で対応する。（一人で抱えない、対応しない。）

・　よい表れも共有し、みんなでほめ、励ます。

・　自分の得意を生かし、苦手は助け合う。

○　働き方を意識し、健康で元気に仕事をする教職員

【参考】

第４次浜松市教育総合計画における「目指す教職員の姿」

○　こどもの自分らしさを受け止める教職員

○　愛情と情熱、規範意識を持ち続ける教職員

○　専門性と指導力を磨き続ける教職員

令和４年１２月　中央教育審議会答申

「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用研修等の在り方について

～『新たな教師の学びの姿』の実現と

多様な専門性集団を有する質の高い教職員集団の形成～」

〔新たな教師の学びの姿〕

○　探求心をもち自律的に学ぶ主体的な姿勢

○　継続的な学び

○　個別最適な学び

○　協働的な学び力

教師の学びは子供の学びの相似形　　*子供のロールモデル*

令和6年度　和田小ボランティア実施状況

回数	学年	月	教科・領域等	内　　容	地域の方	保護者の方
1	１年	４月	集団下校 （９日間）	１年生だけの町別６方向での集団下校での引率補助	１７人 延べ117人	０人
2	1年	４月	給食の時間	給食の配膳・片付けの手伝い	１３人 延べ３７人	０人
3	２年	５月	生活科	町探検の引率補助	７人	１人
4	5年	５月	家庭科	玉結び、玉留め、並み縫い、返し縫い、ボタン付けなどの補助	７人 延べ２５人	４人 延べ１８人
5	２年	６月	生活科	町探検の引率補助　新聞店見学	７人	０人
6	２年	６月	生活科	町探検の引率補助　消防署見学	５人	１人
7	1年	６月	生活科	安間川公園への引率補助	６人	０人
8	ひまわり	6･７月	授業支援	教室後ろでの見守り 個別の声かけや支援	７人 延べ４１人	０人
9	２年	9月	生活科	町探検（グループごと）の引率補助	１０人	３人
10	1年	９月	生活科	朝顔でのリース作りの補助	８人	７人
11	３年 ４年	９月～ ３月	外国語活動	ゲームやアクティビティへの参加や支援	２人 延べ４１人	４人 延べ３７人
12	２年	９月	校外学習	天竜川駅まで引率補助	５人	０人
13	6年	１０月	家庭科	ミシンでのトートバッグ作りの補助	１０人 延べ３５人	６人 延べ１４人
14	５年	１１月	家庭科	ミシンでのエプロン作りの補助	９人 延べ３７人	４人 延べ１７人
15	３年	１２月	国語科	毛筆での書き初め 用具の準備や片付けなどの支援	8人 延べ９人	３人
16	２年	１２月	生活科	おでんパーティー	５人	８人
17	１年	２月	生活科	昔あそび	１３人	０人
ボランティア実施回数合計					**１３９人** **延べ３４２人**	**４１人** **延べ８６人**